

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

野菜類病害の発生状況と防除対策（技術情報第5号）について（送付）
このことについて、技術情報を取りまとめましたので、防除指導の参考資料としてご活用下さい。

野菜類病害の発生状況と防除対策（技術情報第5号）

平成17年2月17日に熊本地方気象台より日照不足に関する熊本県気象情報第1号が発表され、農作物管理への注意が呼びかけられています。現在、野菜で灰色かび病やつる枯病などの発生が多くなっています。気象予報によると、向こう1ヶ月も曇りや降雨の日が多くなると予想されており、これからさらに病害の発生が多くなることが予想されます。下記の作物の病害の発生には十分注意し、防除対策を徹底しましょう。

記

1 野菜類病害の発生状況

- (1) 2月中旬に行った巡回調査によると、トマトでは灰色かび病の発病株率が15.0%（平年6.3%）で、ナスではすすかび病の発病株率が24.0%（平年8.5%）と平年よりやや多い発生であった。
- (2) 病害虫防除員からの報告によると、2月はトマト、ナス、イチゴの灰色かび病、メロンのつる枯病、べと病、スイカのつる枯病、菌核病の発生が平年より多く増加傾向にある。
- (3) 平成17年2月18日福岡管区気象台発表の1ヶ月予報によると、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多く、向こう1ヶ月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない予想であり、病害が発生しやすい気象条件である。

2 防除対策

- (1) ほ場内の排水、換気を良くし、過湿防止に努める。
- (2) 不要な下葉は除去し、通風採光を図る。
- (3) 発病葉、発病果は伝染源となるので、速やかにほ場外に持ち出し処分する。
- (4) 薬剤防除は発生初期から行う。なお、薬剤散布後、薬液が完全に乾く条件下で行う。降雨が続き、薬剤が散布できない場合はくん煙剤を使用する。
- (5) 農薬は登録のあるものを使用し、農薬ごとに定められた使用基準を遵守する。

今後の病害虫の発生状況については、病害虫防除所のホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto>）をご参考ください。

問い合わせ先
熊本県農業研究センター
生産環境研究所病害虫研究室
予察指導係（病害虫防除所）
担当：古賀、前田
TEL096-248-6490